2013 年 6 月 25 日(第 7 版)
2012 年 1 月 5 日 (第 6 版)
2010 年 5 月 12 日(第 5 版)
2010 年 4 月 1 日 (第 4 版)
2007 年 7 月 1 日 (第 3 版)
2006 年 12 月 1 日 (第 2 版)

タニケット カフ 取扱説明書
(オートクレーブ滅菌処理対応品)

【使用方法】

1. 適正なサイズのカフを選択して下さい。
   ゴム嚢が止血する部位の全周より長い、適正なサイズのカフを選択して下さい。

2. 折り目がつかないようにカフを端までしっかり伸ばして、カフを巻いて下さい。
   ・術野を妨げないように、青色の接続チューブが中枢側 (PROXIMAL) を向くようにします。
   ・ダブルカフを使用する場合は、赤色のゴム嚢が抹消側 (DISTAL) になるようにします。
   ・擦傷等で皮膚の損傷を防止するために、必要に応じて下巻きを使用して下さい。
   カフの端と合わせて下巻きを敷き、マジックテープでしっかり締めます。

3. カフを巻いたら紐を結び、カフが横滑りしないようにします。

4. タニケットの延長チューブとカフの接続チューブを接続します。
   チューブが確実に接続されていることを確認して下さい。

5. 必要とする最低限の圧力でカフを膨らまします。
   品質上は 600mmHg まで加圧しても問題ありませんが、上腕で 300mmHg、下肢で 400mmHg を超えない値で加圧することをお奨めします。

6. 患者さんに楽な治療を受けていただくために、推奨する圧力値を下表に示します。

   推奨タニケット圧(mmHg)＝患者の収縮期血圧値(mmHg) ＋ 推奨加算値(mmHg)

ｼﾝｸﾞﾙ/ ﾀﾞﾌﾞﾙ	型 式	品 名	適用周囲長 (cm)	推奨加算値
ｼﾝｸﾞﾙ	20-64-700	ｼﾝｸﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ 乳児用	- 20	120
	20-64-710	ｼﾝｸﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ 小児用	18 - 30	150
	20-64-611	ｼﾝｸﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ 成人上肢用	25 - 35	150
	20-64-612	ｼﾝｸﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ 成人上肢用(大)	32 - 46	150
	20-64-512	ｼﾝｸﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ ｺﾆｶﾙ 成人下腿用	32 - 46	150
	20-64-522	ｼﾝｸﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ ｺﾆｶﾙ 成人下肢用	42 - 61	200
	20-64-527	ｼﾝｸﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ ｺﾆｶﾙ 成人下肢用(大)	55 - 76	200
	20-64-528	ｼﾝｸﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ ｺﾆｶﾙ 成人下肢用(特大)	70 - 86	200
ﾀﾞﾌﾞﾙ	20-60-700	ﾀﾞﾌﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ 乳児用	- 20	120
	20-60-710	ﾀﾞﾌﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ 小児用	18 - 30	150
	20-60-711	ﾀﾞﾌﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ 成人腕用	25 - 35	150
	20-60-712	ﾀﾞﾌﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ 成人腕用(大)	32 - 46	150
	20-60-722	ﾀﾞﾌﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ 成人下肢用	42 - 61	200
	20-60-727	ﾀﾞﾌﾞﾙｶﾌ ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ 成人下肢用(大)	55 - 76	200

【注意】

カフを巻かずに加圧したり、600mmHg を超えて加圧することは決してしないで下さい。

CBC 株式会社
東京都中央区月島 2-15-13 TEL：03-3536-4831 FAX 03-3536-4743

2013 年 6 月 25 日(第 7 版)
2012 年 1 月 5 日 (第 6 版)
2010 年 5 月 12 日(第 5 版)
2010 年 4 月 1 日 (第 4 版)
2007 年 7 月 1 日 (第 3 版)
2006 年 12 月 1 日 (第 2 版)

タニケット カフ 取扱説明書
(オートクレーブ滅菌処理対応品)

【シリコンゴム嚢の清浄・滅菌方法】

1. 洗浄
   - ・シリコンゴム嚢内に水が浸入しないよう、接続チューブ先端のコネクタをプラグ (22-60-000) で栓をします。
   - ・中性洗剤で汚れを拭き取り又は手洗いします。(必ず、中性洗剤を使用して下さい。)
   - ・洗浄後はぬるま湯で十分にリンスをして柔らかい布等で水をふき取り、十分乾燥させます。
2. 消毒
   - ・93℃にて、消毒装置による消毒ができます。
     装置の製造会社が指定するシリコン製品に対する消毒剤、時間、温度等に関する消毒方法に従い、適正に消毒を行なって下さい。
   - ・シリコンゴム嚢内に水が浸入しないよう、接続チューブ先端のコネクタをプラグ (22-60-000) で栓をします。
   - ・硬く鋭利な物が混入し、シリコンゴム嚢に接触しないよう注意して下さい。
   - ・消毒後は、蒸留水で十分にリンスをして柔らかい布等で水をふき取り、十分乾燥させます。
3. オートクレーブ(高温蒸気)滅菌
   - ・接続チューブ先端のコネクタに取り付いているプラグ (22-60-000) を開放します。
   - ・滅菌紙やモスリン布で包む等、滅菌装置内の高温金属に直接接触しないようにします。
     (カフ帯とシリコンゴム嚢を組み立てた状態で、同時に滅菌処理ができます。)
   - ・適正な処理条件 (圧力、処理時間、温度) の下で、滅菌処理をして下さい。
   - ・滅菌処理完了後は滅菌装置から取り出し、十分に自然乾燥させてからご使用して下さい。
   - ・滅菌の回数に応じて、シリコン材質が劣化することをご理解下さい。長くご使用するため、滅菌前に蒸留水で十分リンスして洗剤又は消毒剤を完全に取り除き、十分乾燥させて下さい。

【カフ帯の清浄・滅菌方法】

1. 洗浄
   - ・カフ帯を中性洗剤で手揉み又はブラッシング洗いした後、ぬるま湯で十分にリンスをして、洗剤を取り除いて下さい。(必ず、中性洗剤を使用して下さい。)
   - ・洗濯機を使用した洗浄は、決してしないで下さい。(マジックテープが劣化します。)
   - ・洗浄後は、カフ帯を吊るして十分に自然乾燥させて下さい。
     (自然乾燥後に乾燥機を使用する場合は、マジックテープの劣化を防止するため、回転式の乾燥機は決して使用しないで下さい。)
2. オートクレーブ(高温蒸気)滅菌
   - ・滅菌紙やモスリン布で包む等、滅菌装置内の高温金属に直接接触しないようにします。
     (カフ帯とシリコンゴム嚢を組み立てた状態で、同時に滅菌処理ができます。)
   - ・滅菌の回数に応じて、材質が劣化することをご理解下さい。

【カフ帯の点検】

1. 点検

カフ帯の Velcro 部(マジックテープ部)の接着面のフックの部品が剥離される原因の一つにオートクレーブ滅菌による劣化がございます。オートクレーブ滅菌の回数、滅菌温度・時間等の条件差などがありますが、接続コネクターである CPC コネクターオス(型式 SLZM30)が着脱し難くなった場合(=取付・取外しが硬くなった場合)、Velcro 部(マジックテープ部)をよくご確認頂きたくお願いします。接着面のフックの長さは約 2mm です。少しでも落ちるようであればカフ帯(=カフジャケット)を取替えて下さい。またご使用回数に関係なく定期的に Velcro 部(マジックテープ部)をよくご確認お願いします。

【注意】

洗浄、滅菌後及び使用前に、カフが損傷を受けていないか、空気漏れがしていないかを確認して下さい。

【オートクレーブ滅菌処理の例】

圧　力	処理時間	温　度	被滅菌物の設置方法
大気圧(1.03bar)	30 分	121℃	噴霧した被滅菌物を滅菌紙又はモスリン布で包み、清潔な開放トレイ上に置く。
高気圧(2.07bar)	10 分	132℃	噴霧した被滅菌物を清潔な開放トレイ上の滅菌紙又はモスリン布の上に置く。
真空	30 分	121℃	噴霧した被滅菌物を滅菌紙又はモスリン布で包み、清潔な開放トレイ上に置く。